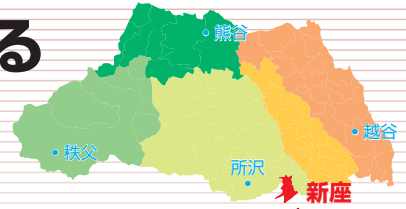


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く 経済リレーインタビュー⑩

新座市 須田 健治 市長 (66歳)



市街化調整区域の有効活用で、
税収の伸びるまちづくりを進める須田健治市長

◆区画整理事業で企業を誘致

地域経済の活性化というのは、全国どの自治体にとっても大きな課題であり、地域が元気にならないと、まちの発展は当然望めません。私は、市長に就任して以来20年間にわたって、「元気の出るまちづくり」をスローガンに掲げて、「税収の伸びる豊かなまちづくり」を推進してきました。同時に、新たな発想と視点で具体的な施策を実施してきましたが、いま最も力を入れているのが「区画整理事業」です。当市は首都・東京に隣接しているにもかかわらず、市街化調整区域が42%を占めています。近隣市に比べても調整区域の面積が多いのが現状で、有効活用をしていかなければなりません。

そこで、これまでも進めてきた区画整理事業によって、調整区域を市街化区域に編入して税収を生み出そうと、JR 武蔵野線の新座駅に隣接した大和田二・三丁目地区で、土地区画整理事業に着手しました。事業の面積は約50ヘクタールで、2011年秋から地権者の方々を対象に説明会や相談会を開いてきまし

たが、これまでと同様に市長自身が先頭に立って旗振り役を務め、直接説明してご理解を得てきました。その結果、計画は順調に進み、現在は国と県にも協力を頂き、事業認可に向けた調整が進んでいるところです。

この区画整理事業では、産業系の用途に変更して企業を誘致し、税収を伸ばすことを考えています。新座駅の近くには貨物駅のターミナルがあり、関越自動車道の所沢インターチェンジにも近く、物流の拠点として申し分ありません。企業を誘致するには十分に条件が揃っているわけで、7年後の2020年の事業完了と並行して、積極的に誘致を進めていきます。もちろん、市外からの企業誘致だけでなく、市内には多くの工場があり、住工混在の地域が点在しています。騒音や環境問題などで、中には移転を考えている事業者の方もおられます。そうした企業が市外へ移ってしまうのではなく、大和田の区画整理事業地内に移転して頂くことも念頭に入れています。

◆大江戸線の新座市内乗り入れを

もう一つ「元気の出るまちづくり」では、都市高速鉄道12号線（都営地下鉄大江戸線）の延伸を実現しようと、近隣の清瀬市や所沢市、練馬区の3市1区で協議会を設け、JR 武蔵野線東所沢駅までの延伸実現に向けた取り組みを積極的に展開してきました。大江戸線は現在、放射部が新宿から練馬区光が丘まで運行していますが、2015年度には大泉学園町まで工事着手することが決まり、その先の延伸については、2000年（平成12年）に当時の運輸政策審議会が『JR 武蔵野線方面は今後整備について検討すべき路線』として位置づけられています。そこで、“何としてでも当市に新駅設置を”と、2011年11月に「新座市都市高速鉄道12号線延伸促進期成同盟会」を立ち上げ、市民とともに活動しているところです。

私たちの希望は、市内の馬場地区に「新座中央駅」という名称の新駅を設置してもらい、東所沢駅に結びつけることですが、その結論が出るのが、2015年2月の国の交通政策審議会の答申なのです。それまでに私たちは新駅を核としたまちづくりビジョンを策定しなければなりません。“これは素晴らしい”というビジョンの中身を示して、新駅設置をアピールすることが非常に大事で、企画力の勝負になってきます。練馬区大泉学園町で終点にするよりも、新座まで伸ばした方が鉄道事業としてメリットが大きいと判断して頂くことが重要だと考えています。

その内容を現在検討している最中ですが、例えば大江戸線が延伸しても通勤、あるいは通学といった一方向に集中した乗降客ではだめで、双方向で利用される鉄道でなければなりません。そのためには、新駅周辺に大学や病院、大型ショッピング施設などを誘致して、まちを活性化させる企画力が問われるわけで、誰もが驚くような中身を期限までに策定したいと思っています。新駅が実現すれば、この新座というまちも劇的に変わるでしょう。

◆アトム通貨の有償ボランティア制度

地域経済の活性化に向けた取り組みはこれだけではなく、市の基本構想の理念になっています「都会の利便性と田舎の心地よさを兼ね備えた新座を目指して」、各種の施策を展開しています。紙幅の関係でそのすべてを申し上げることができませんが、ただ最後に一



区画整理地内に復元された野火止用水は、基本構想の理念を象徴している

言添えるなら、市民の連帯と協働を柱にした住みよいまちづくりを推進しているということを強調したいですね。当市では現在、市民ボランティア活動を中心にまちづくりを進めています。その基本にあるのが“できる人が、出来ることを、できる時に、できる範囲で協力しよう”ということです。

市内にはボランティア団体が602団体あり、おそらく県内で一番多いのではないのでしょうか。これは自慢できることで、教育や福祉から、環境、防災、防犯、観光とあらゆる分野にボランティア団体が組織されています。そこで、高齢化社会となった今、新年度から「有償ボランティア制度」をスタートさせることにしました。なんでも無償となると、お願いする方もされる方も気まずい思いをして、スムーズに高齢者への支援ができません。ですから例えば、通院に車で送迎してもらった時とか、庭の木を剪定してもらった時には、当市の特別住民の鉄腕アトムにちなんだ「アトム通貨」で、通常の料金よりも安い謝礼を支払うという制度を創設します。もちろん、アトム通貨は市内の加盟店で使えるもので、これなら気兼ねなく高齢者の方々は支援を求められ、商店街も活性化するでしょう。

こうした当市のまちづくりに対して、武蔵野銀行さんや、ぶぎん地域経済研究所さんにはご理解を頂き、企業誘致の情報提供などお願いしたいと思います。次回は、江戸時代から深い御縁がある川越市の川合善明市長に引き継いで頂きます。

新座市の概要

人口（平成22年国勢調査）	158,777人
世帯数（同上）	64,436世帯
平均年齢（同上）	43.2歳
生産年齢人口比率（同上）	65.6%
面積（同上）	22.80平方キロメートル
名目市内総生産（平成21年度）	3,649億544万円
事業所数（平成22年工業統計）	234
製造品出荷額等（同上）	1,261億6,844万円
事業所数（平成21年経済センサス）	5,206
年間商品販売額（平成19年商業統計）	2,269億6,114万円